

飛將碁

〔嬉遊笑覽雜四伎〕とび象棋は、によいくといふ物也。略中 篋絨輪、わこの抱守り、袴きた馬蹴あふ時首でによんによを碁いし鶏白黒の碁石にてなり

〔梅園日記〕飛將碁

酉陽雜俎續集に、小戲中、於奕局一枰、各布五子、角遲速、名覺融、予因讀坐右方、謂之覺戎、言鯖に、夢溪筆談、覺融漢書謂之格五、止用五碁、共行一道、亦有能否、徐德中善移、遂至無敵、其法已常、欲有餘裕而致、敵人于險、雖知其術、止如是、然卒莫能勝之、今之兒童、以黑白碁各五、共行中道、一移一步、遇敵則跳越、以先抵敵境者為勝、疑即格五歟。五雜俎に、委巷兒戲、則有行棋或五或書隱叢說に、格五之戲、止用五碁、共行一道、謂之行碁、相塞其法已不傳、或云、即今跳虎也。此下以黑白碁各五より為勝に至り是即格五之遺、未知然否、跳虎古名覺融、小知錄に、奕碁取一道、人行五子名覺融、融戒也、黃帝覺翰戎旅之間戲也、漢書謂之格五、今名豁馬跳などあり、こ、の飛將碁なり、

廻り將碁

〔嬉遊笑覽雜四伎〕廻り將碁、これは兩人各こま一ツを盤の端に置、又こま三ツを采となし、金か歩かと定めてふるに、そのこまあるは堅に立、横に立ことあり、假令ば堅なるを十の數とし、横に立たるを五とし、その目をかぞへ盤の縁をめぐる、追越したるを勝とす、

盗み將碁

〔嬉遊笑覽雜四伎〕盗み將碁、こまを殘らず箱に入、盤上に打ふせ箱を除け、よき駒取たるは勝なり、幾人にてても次第を定め、その駒の音せぬやうにとるなり、

彈き將碁

〔嬉遊笑覽雜四伎〕彈き將碁、一方は歩、一方は大こまを用、各盤の端にならべ、中程の駒いづれにても、指にて敵のこまをねらひて彈き、敵の駒を盤より落せばとる、敵と共に落たるは、敵の方へとらる、こは彈碁の遺法にや、

手法

〔雍州府志七〕將碁盤略中 倭俗為將碁之戲、謂指、以指點馬之謂也、
〔男重寶記〕將碁詞字